

1 主 題 人間の尊厳

2 教材名

21 さわったってAIDSにうつらないよ

3 主題・教材について

私たちの身の周りにはHIVや肝炎等、様々な感染症にかかり、その治療を続けながら生活をしている人がいる。その人たちは、病気に対する苦しみだけでなく、感染症に対する偏見や差別にも苦しめられている。この問題の解決には、感染症に対する正しい知識を身につけることとともに、病気の有無にかかわらず人間の尊厳を尊重し、自他共に価値ある存在として認め合える人権感覚の育成が求められる。

この教材では、人間として当たり前の生活を送りたいというジョナサンの思いや願いを読むことから、感染症にかかった人の思いや願いを知り、人が当たり前に生きたいという思いには軽重がないとする感覚を養いたい。さらには、感染症にかかった人をはじめ社会的に弱い立場にある人の願いに寄り添って生きる態度の育成につなげたい。

（関連教科・領域：国語、体育[保健]）

4 ねらい ・人間の尊厳は全ての人にとって等しいものとする認識や、自他共に価値ある存在として認め合える感覚と態度を身につける。

5 指導計画 第1次 感染症（HIV）にかかった人の思いや願いから、人が人として当たり前に生きたいと思うことは、全ての人にとって共通のものであることを認識する。
第2次 社会的に弱い立場にある人の思いに寄り添って生きるために自分ができることを考えて話し合う。

6 展開例

第1次

○ねらい ジョナサンの思いや願いを読み取り、それが人として当たり前のもの（人権）であることを認識する。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	AIDSについて知っていることを出し合う。	誤った知識に基づく意見が出た場合は、以後の展開の中で正しく認識させる。	
展開	ジョナサンの願いを知ろう。 - 本文の最初から「～味方になってくれるしさ。」までを読む。 - 学校へ行けないジョナサンの気持ちを読み取り、発表する。	- ジョナサンの願い（友だちがほしい、学校に行きたい）に気づかせたい。 - 自分たちの願いと変わらないものであることに気づかせたい。	「子どもの権利条約」第28条
	ジョナサンの願いを遮るものについて考えよう。 - ジョナサンが学校に行けなかった理由を読み取り、発表する。 「学校に行く（教育を受ける）権利」について知る。	- エイズに対する不確かな知識や無理解がジョナサンの願いを遮っていたことに気づかせたい。 「28 子どもの権利条約」（92～93ページ）を使ってもよい。 「人として成長したい」「人間らしく生きたい」と願うことを「人権」として認識させたい。	

○ねらい 感染症にかかった人と共に暮らす上で必要なことを考える。

注：下線は原文にはありません。

【ワークシート】

朝、起きてみると、なんだか体が重い感じがします。
とりあえず、朝ご飯を食べて学校に来ましたが、少し寒気がします。
そう言えばせきも出るし、なんとなくひじやひざが痛いような気がします。
そんなあなたの近くに友だちがやってきました
さて、あなたは…？

名前（ ）

どんな言葉をかけてほしいですか。



かけてほしくない言葉は何ですか。



どんなことをしてほしいですか。



してほしくないことは何ですか。

